

【面接官の印象】

1. 外国人面接官の印象

おそらく 50 代後半の女性。気品のある女性。おだやかにゆっくり語りかけてくれた。

2. 通訳ガイド

おそらく 40 代半ばぐらいの男性。エレガントで知的な感じ。ゆっくり語りかけよく頷いてくれた。

私の緊張をほぐそうと配慮してくれている姿勢がわかった。

3. 通訳試験について

《出題された日本文》

富山県の砺波平野では、水田の裏作で礪波平野でチューリップの栽培を行なうようになりました。

今ではチューリップの球根を国内外に出荷しています。砺波市では毎年 4 月から 5 月にかけて、チューリップフェアを開催し、700 万本、300 種類のチューリップが咲きます。

《自分の解答》

「裏作」がわからず、「球根」が出てこず、苦しみました。

after paddy field crop… というような言い方をしたのを覚えています、前後何をしゃべったのがほとんど覚えていません。

4. 2 分間プレゼンテーションについて

《出題されたトピック》

- ①日本の国立公園
- ②高野山
- ③天皇制度

《選択したトピック》

『高野山』

《発表した内容》

高野山は真言セクトの本山で空海が開いた。空海は中国に留学し密教を日本にもたらしめた。密教は悟りに至る修行を重視する。比叡山の最澄、天台セクトも同じ密教だ。…後は覚えておりません。

5. 質疑応答について

NS	真言宗ではどのような方法で悟りに至るのか？
I	これは禅と同じように、基本は瞑想だと思う。
NS	高野山の周辺の自然環境は？温泉は？
I	南紀勝浦、白浜などの温泉がある。

6. 試験を終えての感想

事前に聞いてはいたものの、控え室～試験会場まで相当の緊張を強いられました。面接会場に入ったら試験官が優しく対応してくれたのですが、ときすでに遅し。日本の国立公園、高野山、天皇制度の3択では、なぜが高野山を選んでしまいました。これは事前に準備したプレゼンのパターンの想定外でした。直後に、国立公園なら世界遺産につなげて構成できると気づき、逆にこれが邪念になって、プレゼン後半はブロークンに陥ってしまいました。しかも、高野山も世界遺産だということに終わってから気がつくという始末でした。

プレゼンは途切れさせずなんとか沈黙は回避でき会話意欲はアピールできたと思いますが基本的に失敗と総括しています。来年、捲土重来です。プレゼンは基本パターンを準備しつつ、トピックが当たらなくても臨機応変につなげられるようなトレーニングがやはり大事だと痛感しました。試験会場の緊張感に吞まれることも織り込んだ準備、つまり口が勝手に動くぐらいの準備が必要かと思いました。